

4月18日に、本校3年生67名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果・分析がまとめました。本調査は、国語・数学・英語の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査(生徒質問紙)も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校生徒の状況をお伝えします。

総合結果（京都市、京都府、全国平均）比較について

下記の表の通り、国語、数学、英語の全教科において全国平均を上回る結果となりました。（全教科平均が全国平均を上回るのは10回連続です。）また、数学、英語は、京都府の平均を上回り、国語は京都府と同等の結果となりました。

	国語	数学	英語
京都市	71	53	49
京都府	71	52	47
全国	69.8	51.0	45.6

国語科より

年度当初の4月に行われた本調査を分析してみると、話すこと・聞くこと領域と読むこと領域の設問に関しては、全国・京都府・平均を上回っている結果が見られました。特に、読むこと領域の設問に関しては、全国・京都府平均を大きく上回る結果となっていました。これは、昨年度以前の国語科の授業を中心に3年生のみなさんが、構成や展開を理解したり、情報と情報の関係を整理して要旨を把握したりして、文章を読み解いてきた蓄積の賜物だと考えることができます。本の読み方についての説明的文章の読解においては、二つの文章を比較して、表現の効果や要旨の違いを読み取る力が見事に育っていることが伺えました。

その反面、語彙や漢字、古典の歴史的仮名遣いなどの知識及び技能や書くこと領域の設問については、全国・京都府・平均を下回っている結果が見られます。これらの力をさらに伸ばせるよう、授業の帯学習において、漢字や語彙を磨く活動をさらに充実していくことを考えています。書くこと領域についても、「根拠を明確にして、自分の考えが伝わる文章を書く」といった力をさらに伸ばせるよう、日々の授業で行っている言語活動の中でも、特に書くことを意識した活動(ノートに意見を書く・作文するなど)の充実を図っていきたいと考えています。

数学科より

今回の学力調査において、本校生徒の正当率が、全国の正当率よりも少し下回った設問は、15問中2問ありました。1つめは、大問5番の累積度数を求める問題です。半数以上の生徒は正しく累積度数を求めることができましたが、4人に1人の生徒は、相対度数を答えてしまっていました。度数分布表の累積度数がすべて空欄だったので、相対度数を求める問題と勘違いした可能性が高いとは思いますが、しっかりと問題文を読み、求められている値を正確に答えることを、これからも注意深く指導していきたいと思います。2つ目の設問は、大問8の(2)で、グラフが直線になる理由を答える問題です。一次関数となる理由を問われているので、グラフの傾きが一定である、つまりそれぞれの速さが一定であると答えるべきところですが、3割ほどの生徒がそれぞれの走る道のりが一定であると誤答していました。駅伝の問題なので、二人の選手が走る道のりは等しく一定であり、それ自身は間違っているわけではありませんが、グラフが直線になる理由にはならないという関連付けができるない生徒が多数いるという結果がでしたので、今後の学習活動に活かしていきたいと考えております。その他は全国平均を上回っており、特に記述の問題において正当率が高かったことは、とても素晴らしい結果だったと思います。

英語科より

本調査において本校3年生の正答率は全国の正答率に対して、聞くことの領域では上回り、読むことの領域では下回るという結果になりました。設問ごとに見ると全国の正答率を大きく下回っていたものは2問あり、1つ目は英文を読み内容を表すグラフを選択するものです。誤答の半数以上が最後の文を読み間違っていることから、瞬時に目に入った情報から判断して細部を見落とす傾向にあるように感じられます。2つ目は英文の空欄にあてはまる接続詞を選択するものです。誤答の傾向から、前後の文の関係を判断できていない場合と、接続詞の用法を正しく理解していない場合が半々いるようでしたので授業内の読む活動で力をつけていきたいと考えております。また、英文の内容に対する自分の意見を述べるもの、学校生活の中から紹介したいものについての説明を書くものも少し全国の結果を下回っています。のことより、自分の言葉でまとまりのある文章を書くことも本校の生徒は苦手としている考えられます。こういった問題に無回答の生徒も全国とくらべて多いため、間違いを恐れずに自分の考えを書くという点も指導していきたいと考えております。

生徒質問紙調査から

【自分自身について】 「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問に対して、肯定的に答えた生徒が約77%でした。自己肯定感をもつことは、学習意欲の向上に繋がります。自身の学習や能力を評価され、自己を認め、さらに意欲が高まるような豊かな学校生活が送れるよう教育の充実を図っていきます。一方で、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、否定的に答えた生徒は全国平均を上回り約35%でした。各教科の学習だけでなく、総合的な学習の時間を活用したキャリア教育の中で、生徒一人一人が自身にふさわしい進路選択や将来設計をしていけるよう学習の工夫を図りたいと思います。

【規範意識や人権意識について】 「いじめはどんな理由があってもいけない。」という質問にほぼ全ての生徒が肯定的に答えており、いじめを許さない強い姿勢が感じられました。人権意識を育てていくこと、生徒一人一人の人権を守っていくことを継続していきたいと思います。

【生活習慣について】 「毎日、同じ時間に寝ている。」という質問に対して「あまりしていない」もしくは「全くしていない」と答えた生徒は前年より減少して約14%という結果でした。生活習慣の乱れは体の健康だけでなく心の健康にも影響します。学習の定着を図るためにも、下校後から就寝までの家庭での過ごし方の見直しや計画的な家庭学習の時間の設定を促していきたいと思います。

【家庭学習について】 「自分で計画をたてて勉強をしていますか。」という質問に対しては、肯定的な回答が全国平均を下回りました。与えられた課題だけではなく、自身の学習状況に関心を持ち、計画的に学習することに課題があるようです。また「学校の授業以外に、1日当たりどのくらい勉強しますか」という質問に対して、「3時間以上」と答えた生徒が全国平均に比べ多い一方で「あまりしていない」「全くしない」と答えた生徒は全国平均より多く見てとれました。学校の宿題や塾など決められた課題がない場合でも自分で計画を立て学習をするよう促しています。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、個人の順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果から、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が多く見てとれます。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力を願いいたします。